

# ポリシーブック作成の手順例

②グループ化された課題を全員で共有し、「この課題の本質はなんだろう」「なぜこんな課題が発生するんだろう」という視点で議論する。

Point

- \* すべての課題を議論する時間がないときは、項目を絞り込んでもいい
- \* なぜその課題が生まれたのかを深く掘り下げることがポイント!

③出された課題を、  
**A: なにに関する話題か**  
**B: 実際の課題はなにか**  
**C: 課題発生要因はなにか**  
 についてまとめ、発表に向けた準備をする。

Point

- \* 下のような表を作り、簡条書きにして班ごとにまとめると発表しやすい

A: なにに関する話題か

B: 実際の課題はなにか

C: 課題発生要因はなにか

議題	議題の概要	議題の発生要因
新年度に希望する課題	・希望する課題 ・希望する理由	・希望する理由
希望する課題を共有する	・希望する理由 ・希望する理由	・希望する理由
希望する課題を共有する	・希望する理由 ・希望する理由	・希望する理由
希望する課題を共有する	・希望する理由 ・希望する理由	・希望する理由

## 手順 4

時間の目安  
15分

### 各班から発表をする

手順3でまとめた内容を、1班3分程度で発表する。



Point

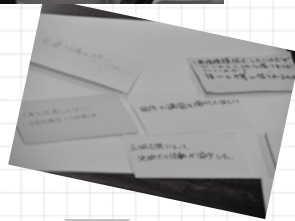
- \* 発表にはできるだけ全員が関わろう
- \* 次回までに、出た課題の情報を収集してみよう

## 手順 2

時間の目安  
20分

### 日ごろ自分が感じている身近な課題を出し合う

それぞれが思っていること、疑問、不満、課題をひたすら出し合い、付箋に書いて、グループ内でそれぞれが発表し合う。



## 手順 3

時間の目安  
50分

### 出された意見を項目ごとに整理・分類し、分析する

①各自が意見を記入した付箋を、関連する項目ごとにグループ化する。

Point

- \* たとえば、後継者の問題、組織の課題、地域の課題、農作業の課題などに分類



組織の課題

地域の課題

その意見  
いいね!



## グループディスカッションのたいせつなルール

- ・人の意見を否定しない
  - ・話を最後まで聞く
  - ・意見は質より量を出す
  - ・全員が意見を出す
  - ・おもしろい意見には便乗する
  - ・できない理由ではなく、できる条件を探す
- 1グループは5、6人が目安

## 1回め

### 準備

### 取り組む意義を確認する

第1話(21~24ページ)を使って、部長などがPB作成の意義を説明。参加者全員で共有する。



グループ  
ディスカッションの  
開始!

## 手順 1

時間の目安  
10分

### アイスブレイク: 自己紹介

アイスブレイクは緊張をときほぐすための手法。A4の紙に以下の4つの項目を記入してグループごとに自己紹介をする。

名前(ニックネーム)	住んでいる地域
作っている農産物	趣味と特技

# 手順 7

時間の目安  
15分

## 各班から発表をする

手順6でまとめた「課題とその解決策」を、1班3分程度で発表する。



Point

- \* 解決策を導く過程で出てきた具体的な意見をつけ加えながら説明するとわかりやすい
- \* 口頭だけの発表より、寸劇や紙芝居形式で発表すると、イメージが湧きやすくなる

グループ  
ディスカッションの  
開始!

# 手順 6

時間の目安  
40分

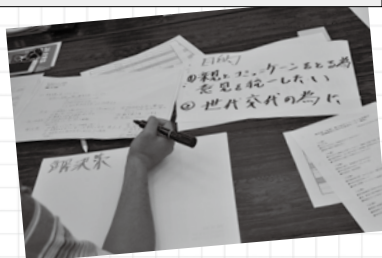
## 解決策を具体化し アイデアをまとめる

1テーマごとに、

- A: 「課題解決の目的はなにか」
- B: 「その具体的解決策はなにか」

についてまとめていき、以下のようにシートに記入して、発表に向けた準備をする。

テーマ名	
A 課題解決の 目的はなにか	B 具体的解決策 はなにか



# 3回め

# 手順 8

時間の目安  
60分

## 「課題とその解決策」を具体的な行動計画に落とし込む

- ① 一つ一つの課題にたいする「解決策」について、改めてよりよい解決策はなにかを話し合う。
- ② 解決策について、自分たち (JA 青年組織) でできることを明確にする。解決できないものについては、どの部分をJAと連携し、行政へ要請して解決していくのか、話し合いをして、以下のようなシートにまとめ、発表の準備をする。

- \* 1つのテーマについて1シートでまとめる。「個人・JA青年組織で取り組むこと」「JAと連携して行うこと」「行政へ要請すること」のそれぞれについて、「いつ、どこで、だれが、なにを、どうやって」行うのかを考えると行動が具体化する

【Planシート】

※該当しない箇所には「-」を入力してください。  
※「なぜ」は必ずシートブックに記載するための名称

課題 (その着地点)	時期 いつ	場所 どこで	人 だれが	物 なにを	方法/どうやって 具体的解決策		
個人・青年組織 で取り組むこと	個人・青年組織で取り組むこと	期日・いつ (When)	場所・どこで (Where)	人・誰が (Who)	物・何を (What)	なぜ (Why)	方法・どうやって (How)
JAと連携して 行うこと	JAと連携して行うこと	期日・いつ (When)	場所・どこで (Where)	人・誰が (Who)	物・何を (What)	なぜ (Why)	方法・どうやって (How)
行政へ要請 すること	行政へ要請すること	期日・いつ (When)	場所・どこで (Where)	人・誰が (Who)	物・何を (What)	なぜ (Why)	方法・どうやって (How)

(参考: 北海道JA新はこだてプランシート)

# 2回め

グループ  
ディスカッションの  
開始!

[準備]

## チェックイン

最近の出来事や今日の意気込みなど、全員がひと言ずつ話をする。

Point

- \* チェックインとは今の気分や、今日の意気込みなど、全員がひと言ずつ述べてみんなで分かち合う手法。グループの雰囲気を温める役割がある

# 手順 5

時間の目安  
40分

## 解決策のアイデアを出し合う

① 1回目の話し合いで出てきた課題の中から解決したいものを数点に絞り込む。

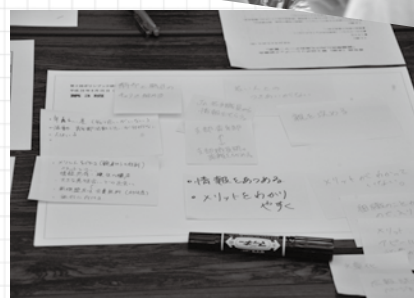
Point

- \* あれこれ表面的な話をするよりも、1つの課題について深く話し合うほうがよい

② 絞り込んだ課題にたいする「解決策」のアイデアを、各自付箋に記入し、グループ内で披露し合う。人の意見から思いついたことがあれば、どんどん出して、話を深めていく。

Point

- \* 固定観念にとらわれず、思いついたことをどんどん発言していくほうが、よいアイデアにつながっていく
- \* 1人で解決策をすべて決めてしまおうと思わないでいい



- 〔現状〕  
 ○○○○ …課題の背景
- 〔課題〕  
 ○○○○
- 〔解決策〕
- ・個人、JA青年組織で行うこと  
 ○○○○に取り組む。
  - ・JAと連携して行うこと  
 ○○○○に取り組む。
  - ・行政へ要請すること  
 ○○○○に取り組む。

## その後

### 手順 10

#### ポリシーブックにまとめる

これまでの議論をもとに、青年部役員とJA事務局が連携し、PBとしてまとめる。

#### Point

- \* 1つの課題にたいして1つの解決策を記入する。現状の部分には、具体的なデータなどを加えると、より説得力が増す
- \* JAグループや行政がすでに取り組んでいる内容を解決策に入れている可能性もあるので確認したほうがよい

### 手順 9

時間の目安  
60分

#### 各班から発表をする

実現性など、問題点がないか意見を求め、全員で議論。取り組みの優先順位などについても話し合う。

#### Point

- \* JAの常勤役員や管理職員などの、意見交換会の形式にすると、より具体的な取り組みにつながる
- \* 小さなことでもいいので「行動すること」を宣言する!

### Column 1 アイデアを まとめるコツ

## インプットなくして アウトプットなし

岡崎エミさん 東北芸術工科大学准教授

グループで解決まで導くにはチームワークが必要です。まずはアイスブレイクやチェックインという方法で、その場を温めることから始めましょう。

いざ解決策や新しい活動の企画を考え始めると、アイデアが出ないことがあります。それはその人の能力のせいではなく、頭の中の「材料」が尽きたただけ。アイデアがあふれるようにするためには、「材料」のインプットがとてみたいせつになります。

「材料」とは、内容に直結している事例でもいいですし、観光施設の情報や人が集まるイベント、大きな祭りなどの情報でもいい。参加者の特技や人脈などもすべて「材料」になります。また、地域の魅力や資源、JAの強みを理解することや、JA青年組織綱領の意味をおさらいすることもだいたいなインプットです。

つまり、幅の広さがだいじなのです。人は「思い込み」があると、他の可能性の存在を考えなくなり、

一例を挙げると、東北地方のある農家は冬場に仕事がなく、地域にも仕事がないと思いついていました。しかし同じ地域の工場の人に話を聞けば、若者が外に出てしまい慢性的な人手不足に悩んでいて、その両者をつなげば解決する問題だったのです。農家だけでなく、地元の商工会や飲食店、観光協会など、いろんな立場の人を話し合いのメンバーに入れることがたいせつです。

せつかく地域や農業のことを話し合うのなら、時間をかけて、「ラーニング・ジャーニー」という手法を試してほしいですね。たとえば六人の班であれば、一人は観光協会、一人は地元のお店といったように、すべて違うところに話を聞きに行く。その後、ふたたび同じ班で集まって

各人が聞いてきた話を共有する。すると、短時間で多種多様な知識がグループにもたらされ、アイデアが一気に広がります。

なお、アイデアをまとめるときにいちばん重要なことは、「だれかがやればいい」ではなく「自分でやる、行動する」というスタンス。「消費者の意識を変えたい」という言葉をよく聞きますが、意識は「行動と習慣」を変えないと変わりません。行動はそのための第一歩。グループディスカッションの発表のさいは、「観光協会の人と飲みに行く!」など、小さなことでもいいので、「自分が行う第一歩」を、みんなの前で宣言してみるといいでしょう。



おかざき・えみ

早稲田大学を卒業後、出版社で女性誌の編集部勤務したのち、1999年に独立。「Luca」副編集長、「LIVING DESIGN」編集長を歴任して、2009年にコミュニティーデザインを手がけるstudio-Lに参画。町づくりの支援や研修プログラムの開発などに携わる。